

# ニュースレター 3月

2023. 3. 1発行



今月は風呂リフォームの時期を知る、7つのサインと損得勘定についてお届けします。



HPのお問合せはこちらから

お風呂のリフォームは、時期を逃すと余分な費用がかさんでしまうことがあります。大事なことはタイミングを見極めること！  
リフォーム時を知る7つのサインと、お風呂と一緒に工事しておくとお得なものをご紹介します。

## 1、風呂リフォームの時期は20年が目安、その後は損が増える傾向に



築15年を超える頃になると、浴室内部にカビや汚れが目立ちだし、そろそろ新しいお風呂にしたいと考え始めるようになります。

お風呂のリフォーム時期は、約20年が目安です。このタイミングを逃すと、劣化が加速したり、維持費がかさんだりすることで、後で損をする可能性があります。

お風呂は常時、湯水が掛かる場所です。内部に水が浸入して土台が腐食していたり、シロアリの被害にあっていたりすると、余分な工事費用が掛かります。また古い設備を使い続けることで光熱費がかさみ、場合によっては健康に被害を及ぼすこともあるのです。

## 2、お風呂のリフォームの時期を知らせる7つのサイン

お風呂リフォームの時期を見極めるための7つのサインをご紹介します。我が家のお風呂をチェックしてみましょう。

1. 築20年を過ぎて、お風呂のメンテナンスを一度もしていない
2. 隣りにある洗面脱衣室の床がぶよぶよしている
3. お風呂の壁や床、浴槽にヒビワレ、サビが出ている
4. カビがひどくなってきた
5. 排水口の掃除をしても排水が流れにくい、どこか臭う
6. 水栓金具の温度調節がききにくくなってきた
7. お風呂の外の壁に水が染み出た跡がある



浴室ドア下が腐食している状況

上の7つのサインが出てきたら、そろそろリフォームのタイミングです。特に、2.隣りにある洗面脱衣室の床のぶよぶよ、3.浴室内のヒビワレ、7.外壁への水の染み出しは要注意。構造部分まで腐食が進んでいる可能性があります。早めに業者に見てもらいましょう。

## 3、風呂リフォームの時期を逃すと、損が増える理由とは



お風呂のリフォームをお得にするコツは、一步早めのタイミングで行うことにあります。劣化が進んで水が染みだせば、木造住宅の場合は構造部を腐食させる可能性があり、マンションは漏水の危険があります。どうせリフォームするなら、そうなる前にやっておくことで、余分な費用の節約ができます。

またこの10年で住宅設備は急速に進化しています。最新の省エネや家事ラクに配慮された設備なら、水道光熱費の削減ができ、掃除やお手入れが格段にラクになります。特に家庭におけるエネルギー消費の中でも、お湯を沸かすために使用するエネルギーの割合は大きいので、お湯をたくさん使うお風呂のリフォームは、水道光熱費に大きな影響を与えます。

このように、タイミングを逃したまま時期を重ねてしまうと、工事費の増大に加え、これらのランニングコストの差額が積み重なり、損が増えていくこととなります。もちろん、お風呂が新しくなれば、毎日ゆっくりとくつろげるようになるのも大きな魅力。

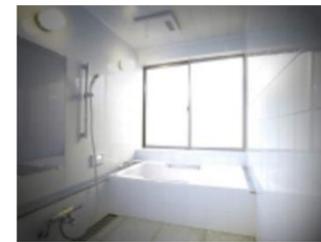
お風呂をリフォームした人に感想を聞くと「こんなに快適で便利になるなら、もっと早くやっておけばよかった」という声が多いのも、このような早めのリフォームで得るものが多いからなのです。

## 4、ひとあし早いお風呂リフォームが得する3つの理由

では、ひとあし早いお風呂リフォームが得する3つの理由をまとめてご紹介します。

1. 腐食が進む前にリフォームすれば、ムダな補修費用が掛からない
2. 節約エコな設備機器の登場により、水道光熱費の差額が大きくなっている
3. 掃除などの家事に掛かる時間と費用を節約できるようになる

## 5、早めにリフォームしておきたい、7つの危険なお風呂



今や交通事故よりも、家庭内事故による死亡者数が3倍も多い時代です。中でも多いのが、浴室でのヒートショック現象による死亡事故です。

ヒートショックとは急激な温度差に身体がさらされることで、血圧や脈拍が大きく変動し、体調を崩す現象のことを言い、多数の死亡事故が起きています。古い浴室は断熱性が低く、暖房設備も整っていないため冬に寒く、そんな中で熱いお湯につかれば、ヒートショック現象を起こしやすくなります。

健康に暮らすために大切なことは、冬のお風呂場を暖かくしておくことです。リフォームの際は、断熱材でくまられたシステムバスや、浴室暖房器を設置するなどの工夫で、ヒートショック対策をしておきましょう。

### 【早めにリフォームしておきたい7つの危険な風呂】

1. 冬になると浴室が寒い
2. 脱衣室と風呂場の床に段差がある
3. 石鹸やお湯で床が滑りやすくなる
4. 手すりが取り付けられていない
5. 浴槽のまたぎ高さが高すぎる、もしくは低すぎる
6. 水洗金具の取り付け位置が悪く、体にぶつけやすい
7. 非常時の呼び出しベルやインターホンが無い



家全部を断熱するのが難しい場合は、裸になる脱衣室と浴室だけでもヒートショック対策をしておきましょう。窓には内窓を取り付け、脱衣室の床下に断熱材を入れるだけでも寒さが軽減できます。特に浴室の窓は見逃しがちなので、忘れずに断熱化を行っておきましょう。

お風呂場は裸になって湯水を使う場所ですので、安全性には特に注意が必要です。高齢者の場合は、命の危険がありますので、床の段差解消はもちろん、寒いお風呂はできるだけ早く対策をしておきましょう。

## 6、水まわりを一緒にやると更にお得にリフォームできる

更にお風呂リフォームをお得にするコツは、関連工事をまとめて行うことです。キッチン、浴室、洗面、トイレ、給湯器はまとめることで、バラバラに工事するより効率が上がり、お得にできます。

快適に過ごすため、またランニングコストの抑制等今後の生活に欠かせないリフォームとなります。

またお風呂はちょっとした工夫で、もっと楽しく便利な空間になります。

**株式会社 渡辺組**

本社 海津市海津町高須町720-1  
0584-53-0174

リフォーム 海津市海津町馬目371-3 (コーポ日新1F)  
0120-202-988

E-mail: info@watanabegumi-kaizu  
URL: http://www.watanabegumi-kaizu

\*毎月皆様の暮らしのお役立ち情報をお届けしています。何かお気付きの事や知りたい事などございましたらいつでもご遠慮なくお申し付け下さい。皆様のご意見ご感想を元にお役に立てれば幸いです。